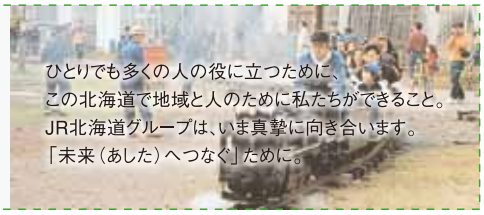
未来（あした）へつなぐ

【安全への取り組み】



ひとりでも多くの人の役に立つために、
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来（あした）へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂

琴似営業所にドライバーサポートルームを設置し、「運転者適性診断」を社内で実施！
～ジェイ・アール北海道バス～

通勤や通学などに利用する路線バスは、ドライバーが車掌の仕事を兼務する、いわゆるワンマンバスが主流です。各種自動機器が装備されているとはいえ、道路と乗客の両方に気を配りながら、定刻通りに運行するのは、ベテランドライバーでもなかなか難しいのではないでしょうか。

平成24年9月25日に開所した琴似営業所内のドライバーサポートルーム。自動車事故対策機構のものと同じ「運転者適性診断」の測定システムを4台導入。

ジェイ・アール北海道バスでは、安全安定輸送の確保とお客さまへのより良いサービス提供を目標に、徹底した社員教育を展開し、ドライバー一人ひとりの安全へのプロ意識と技能向上に努めています。平成二十四年度は、自動車事故対策機構（NASVA）が行っている「運転者適性診断」を社内でも実施できるよう、琴似営業所にドライバーサポートルームを設置し、測定システム「ナスバネット」を導入。それまでは、全六百八十名のドライバーに対し、三年に一回のスパンでNASVAでの運転者適性診断を義務づけていましたが、これにより独自のスタイルで進めることができるようになり、「乗務員定期研修」の一環として、昨年十月から運用を開始しました。

同研修は三名一組で実施され、三年サイクルで全乗務員を対象に実施。診断項目は、「安全エコ」「先急ぎ」「予防安全」「思いやり」ほか、運転に関する七項目で構成されています。受診内容はインターネットでNASVAへと送られ、診断結果として、運転者の特徴などが記載された適性診断票が、瞬時に返ってくる仕組み。研修では、それに基づいた指導・助言、接遇講座、事故発生時の対応訓練、一般道での訓練車教習などが行われます。ドライバーにとっては初心に返る貴重な機会となるだけでなく、他の人の運転を体感したり、情報交換ができることから、得るものも多いようです。

訓練車で一般道を走行。他の人の運転を観察しながら自分の運転技術を再確認。

このほか、圧雪・アイスバーン路など、北海道ならではの冬道走行に備え、厳寒期に行われる「冬道走行訓練」も代表的な取り組みのひとつ。毎年、新人ドライバーを中心に約五十名が野幌運動公園で、冬の悪路を想定したコースを体験します。昨今は省エネ対策として、エコ・ドライブ運転の訓練も導入。

ジェイ・アール北海道バスでは、今後も時代のニーズに呼応しながら、安全安定輸送の確保に力を注ぐ方針です。Ⓙ

「冬道走行訓練」では、すり鉢状の道路を再現し、バス停で停止する体験も。